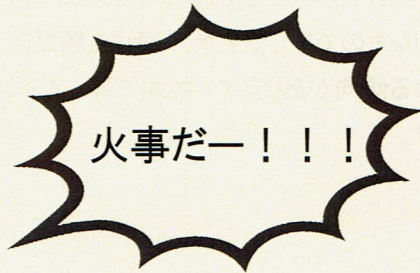


これから寒くなる季節に、暖房器具の使用頻度も高まります。お部屋で突然火災が発生したら…その時に落ち着いた行動が取れるよう、初期消火の手順と避難するタイミングについて確認しておきましょう。

初期消火と避難のタイミング

初期消火とは、火災による被害を最小限に食い止めるための消火活動です。初期消火のタイミングは一般的に**火が天井または、自分の身長以上まで燃え広がっていない状態**で、住宅火災の場合、**出火後 2～3 分以内**と言われています。

①大声で知らせる。



「ご近所に知られたくない」「恥ずかしい」という咄嗟の意識は捨てなければいけません。

②119 番通報・初期消火



近隣へ通報を依頼するか、近くに 2 人以上の人がいる場合は 119 番通報と初期消火を手分けして行います。

③避難



天井に火が届いてしまったら、消火を諦めてただちに避難行動を開始してください。

<避難時の心得> 延焼を防ぐために、燃えている部屋のドアや窓を閉めて迅速に避難します。持ち出す物にこだわらずできるだけ早く逃げましょう。共用廊下に出たら、非常通報ボタン(火災報知)を押して火災を全住戸に知らせてください。非常階段で地上へ避難します。この時、煙の流れに注意。非常階段に煙が充満していたら別の避難ルートを選択します。そして、一旦避難したら絶対中に戻ってはいけません。

■ 消火器の使い方

- ①燃えている物に近づき(およそ 3～5m)、黄色の安全ピンを上引き抜きます。
- ②ホースをはずして、火元に向けます。
- ③レバーを強くにぎり、放射します。

安全ピンを抜く



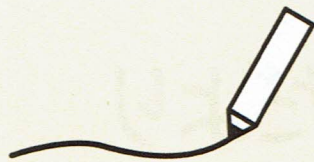
ホースを外して火元を狙って



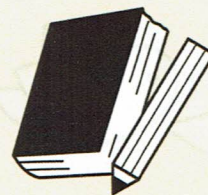
レバーを強く握って放射



*ご自宅にある消火器が取り出しやすい場所に保管されているか、改めてご確認ください。キッチンなどの火事が起きやすい場所での保管は危険ですのでお薦めできません。



お役立ち情報



マンションには年齢、ライフスタイルの違う人たちが、同じ建物と一緒に暮らしながら、お互いに迷惑をかけないように思い合い暮らしています。居住者間のコミュニティが活発になると、日常生活だけではなく、災害や緊急時等、非日常的な場面でも、その力が発揮されることが期待できます。

「マンションコミュニティ」に必要な3つの要素

顔を知るコミュニティ

地域で生活する上で防犯面、防災面を考えると、お互いの顔を知ることは最低限必要なことです。マンションは隣り合い・重なり合って暮らす建物であり、上下階や近隣間の音のトラブルは生活上深刻なものです。ですが、「音にも顔がある」といわれるように、顔を知っている人の音については受け入れる許容が大きくなる傾向があります。共同で暮らすマンションでは、相互に居住者が顔を知り合うコミュニティが基本的に求められるのです。

助け合いのコミュニティ

相互扶助により、より快適で居住性の高い暮らしを実現するために必要なコミュニティで、例えば、「相談相手になる」「買い物を頼む」「重い荷物を運ぶのを手伝ってもらう」などがあります。居住者によって、こういった付き合い方を望む人もいればそうでない人もいるかもしれません。しかし、こうした助け合いができる関係性があることは、災害や非常時において居住者にとっては大きな安心につながります。

共同管理のコミュニティ

住みやすいマンションにするためにマンションの管理組合では、さまざまな活動や検討が行われています。マンションで大事なことは、法律や規約といったルールに沿った活動を軸に、そこに住む人々が本当に住んでよかったと思える、安心・安全な環境をつくる、創発的なコミュニティ活動を行うことがとても大切です。



イベントの事例

コミュニティ形成を目的とした取り組みをご紹介します。

全体	小規模マンション (~50戸)	中大規高層 マンション	超高層マンション
防災活動	清掃・ゴミ拾い 資源物回収	防災活動	防災活動
清掃・ゴミ拾い 資源物回収	防災活動	清掃・ゴミ拾い 資源物回収	クリスマス会
夏祭り	懇親会	夏祭り	懇親会
餅つき大会	草花の手入れ	餅つき大会	夏祭り
草花の手入れ	季節の行事	懇親会	清掃・ゴミ拾い 資源物回収

一般社団法人 マンション管理業協会「マンション暮らしのフォーシーズン」
<http://www.kanrikyo.or.jp/4season/index.php>

